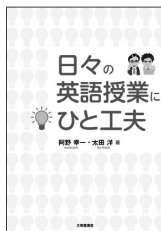


日々の英語授業にひと工夫

阿野幸一／太田 洋 著

A5判 282pp.
本体1,800円＋税



三浦 孝

先輩英語教師の知恵袋

本書は、雑誌『英語教育』の連載「アノ先生とヒロ先生の日々の授業にひと工夫」の集成・加筆版である。266ページ、37のテーマで書かれた授業アドバイスには、熟達先輩教師の知恵袋として、英語科教育法テキストにはあまり書かれていない現場の知恵がぎっしり詰まっている。

全編に貫かれる姿勢は、一方的知識注入型授業でなく、学習者が答を導き出す力の育成としての授業づくりである。それは、①生徒1人1人が答を考え②小グループで答を出し合い検討③検討した答をクラス全体に発表、というプロセスである。この過程で、使用言語を適切に切り替えることにより、授業に英語使用と内容的深まりの両方を生む。教師が活動②をモニターする中で、生徒のアイデアや困難点を発見してそれを全体に還流して学びをレベルアップする。

本書には、両著者の現場の知恵が宝石のように散りばめられているので、その中のいくつかをほぼ原文のまま（多少の字句省略あり）紹介したい。

「4章. 授業の最初の5分」：卒業生から「先生は授業中、よく飲みに行った話をしていましたよね」と言われました。こうした雑談には、日本語・英語にかかわらず生徒は耳を傾けてくれます。これで教室の中は、英語を使ってコミュニケーションを取る準備が完了です。

「6章. イベントの実施」：準備の過程で英語力をつけていくようなイベントを企画することです。…学年全体のスピーチコンテストは保護者にも案内を出しています。やはりそのような協力体制があるからこそ、効果的に、かつ継続的に実施できるのですね。

「コラム⑦」：Michelle先生は、Teaching vocabulary というトピックで授業をする際に、「語彙指導で大切なことは何だと思いますか」と私たち（受講生）から考えを引き出します。意見を「いいわね」「なるほど」とコメントしながら黒板にまとめていきます。そしてその後、板書した内容に触れながら自分の意見を述べていきます。

「10章. リーディング」：事前に教科書のコピーを渡し知らない単語を黒で塗りつぶせば、黒塗りのところにはどんな意味の単語が来るかを考え…すると、推理力を働かせながら深く読むことになる。

「14章. 音読指導」：各学期の終わりに、生徒1人1人と「1分間音読テスト」をしていました。習った教科書の範囲の中から、ある1ページを音読してもらいます。1人1分ですから、1時間で終了します。

「15章. 文法指導にひと工夫」：Grammar Hunt は2度目3度目に会わせたい文法事項を教科書の習った範囲から探させる活動です。例えば、2年生の3学期になった時点で、「今までに習った教科書の本文から There is ... の文を見つけてアンダーラインを引きましょう」と指示をします。

「19章. ペア・ワーク、グループ・ワーク」：ただ答えが与えられるのを待つスタイルの授業と比べて、生徒の参加意識も変わってきますよね。

「21章. 英語で進める授業」：まずは日本語で意見を存分に述べて、グループからクラスにレポートする時に英語で発表をする、ということも必要。

「22章. 日本語訳の使い方」：「欲しい人は（日本語訳プリントを）自由に持って行っていいですよ」と伝えました。…年度の終わりには数枚用意するだけで十分でした。

「32章. 多読指導」：中学2年の3学期になったら、1時間授業を使い、「他社の教科書を読もう」という活動をもう一度行います。

最後に、本書は英語教師が陥りがちな指導上の誤りに言及する際、高所から人を批判する代わりに、著者自身の過去の過ちを告白し反省するスタイルを取っている。そんなやさしさもあってか、この本を読んでいるとなんだかほのぼのとするのである。

（みうら たかし・静岡大学教育学部教授）